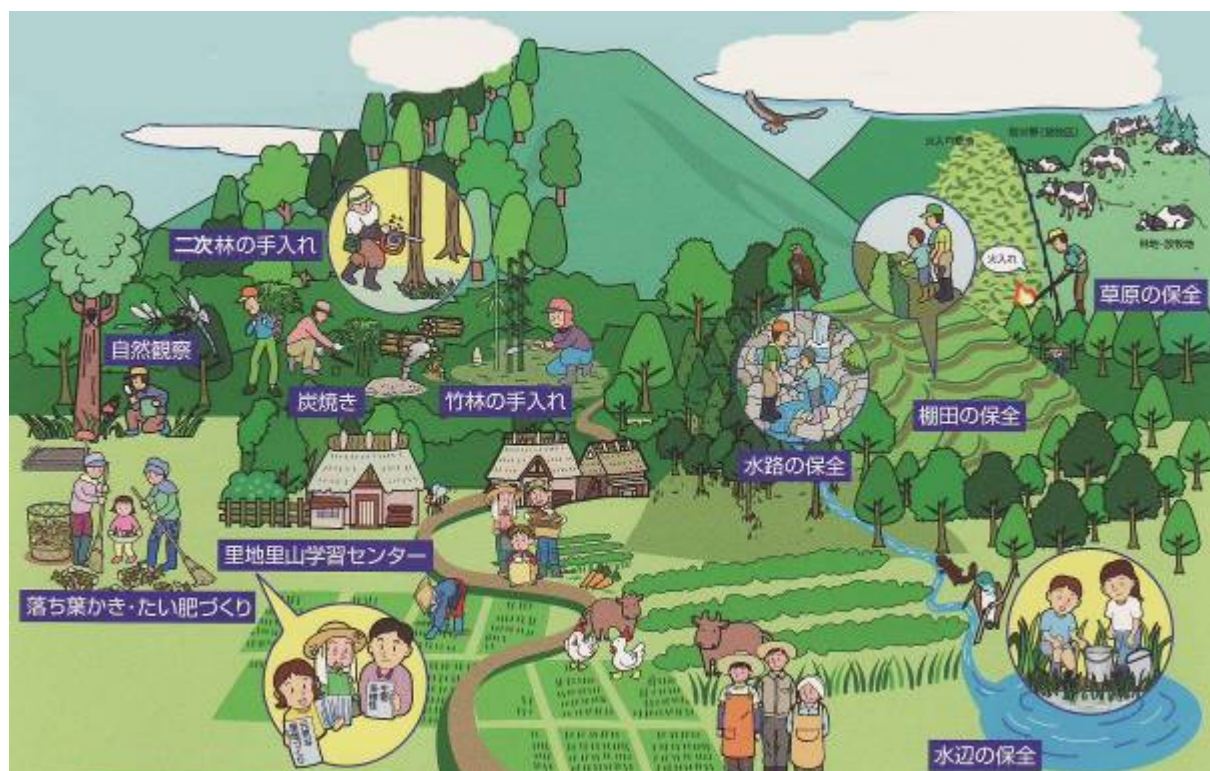


2-2 里地里山を活用する



手入れが行き届かず荒れていく里地里山を活用するためには、管理の担い手を確保しつつ、土地利用の転換を防いでいくことが重要です。里地里山は主として「第一次産業の場」ですが、同時に「生物多様性保全・自然とのふれあいの場」でもあります。これからは、この価値をみんなで認めていくことが必要です。

里地里山には、二次林（雑木林、巨木林、竹林ほか）と、湧水地（水源と湧水湿地）、谷津田、棚田などの水田とため池、小川（水路）、草はらなどがあります。雑木林には、スミレ類、カタクリ、シュンラン、ツツジ類、ギフチョウ、巨木林にはアオバズク、水田やため池には、カエルやサンショウウオ、メダカやトンボなど、それぞれの環境タイプに適した種が生息しています。

このため、里地里山保全再生計画づくりは、地域の環境タイプと現地の状況に応じた保全再生の考え方が必要です。また、さまざまな環境タイプを組み合わせることも必要です。

2-3 二次林

里地里山の中心をなす二次林は、薪や炭の材料としてすぐれているコナラ、クヌギ、アカマツなどから構成されています。かつての二次林はおおよそ10～30年ごとに伐採されていたため、樹木は小さく、明るい環境が広がっていました。このような二次林には、明るい林が好きなスミレ類、カタクリ、シュンラン、ツツジ類、ギフチョウなどがたくさん見られました。ところが、燃料が薪から石油やガスなどに代わり、二次林の利用・伐採がなくなると、木が大きくなってソヨゴやヒサカキなどの常緑広葉樹やササが増え、林は暗くなり、生きものが少なくなっています。生きものにぎわいをよみがえらせるために、明るく、手入れされた二次林を作って保つことが大切です。

タケはタケノコ採取や竹材採取目的に農家の裏山などに植えられ大切に管理されていました。最近では、タケノコの自給率が下がり手入れされていない竹林が増えています。タケのなかでも成長の早いモウソウチクはタケノコから約1ヶ月で20メートルの高さに達し、まわりの植物を日陰にして枯らしてしまいます。タケノコを採るなどの管理を行わなければ、竹林が1年に最大3～4メートルの割合で拡大します。しかし、川を越えられないこと、地面より深さ30センチメートル以内に地下茎が生えているために、それ以上の深さの壁をつくと遮断できるなどの拡大防御方法があります。

増え続ける竹林は、これからの里地里山管理の上で最大の問題点かもしれません。

雑木林（林床の明るいコナラ、クヌギ、アカマツなどの林）【萌芽林維持型】

雑木林は、農用林とも呼ばれる林です。コナラ、クヌギ、アカマツなどで構成され、落ち葉の生産量は1ヘクタール当たり年間6トン程度と報告^{*1}されており、落ち葉堆肥、椎茸栽培、粗朶や炭焼き、薪などで活用されてきました。また、定期的な伐採（10年～30年ごと）と下草刈、落ち葉掻きにより、林内と林床は明るく保たれていました。この管理作業を繰り返すことにより、カタクリなどの植物やギフチョウなどが生息できる環境が整います。

*1 「市民による里山林整備指針」(神奈川県自然環境保全センター 平成13年)

巨木林（樹洞がある木や大きな巣を掛けられる木の森）【巨木林遷移型】

巨木林（大径木林）とは、林の中に太い木がたくさんある林のことです。巨木には樹洞があることが多く、オシドリ、フクロウ、アオバズク、リス、ムササビといった樹洞に営巣する生き物がすみまします。また、見晴らしの良さや大きな枝ぶりを利用して営巣するオオタカなどの大型の鳥類もすむことができます。

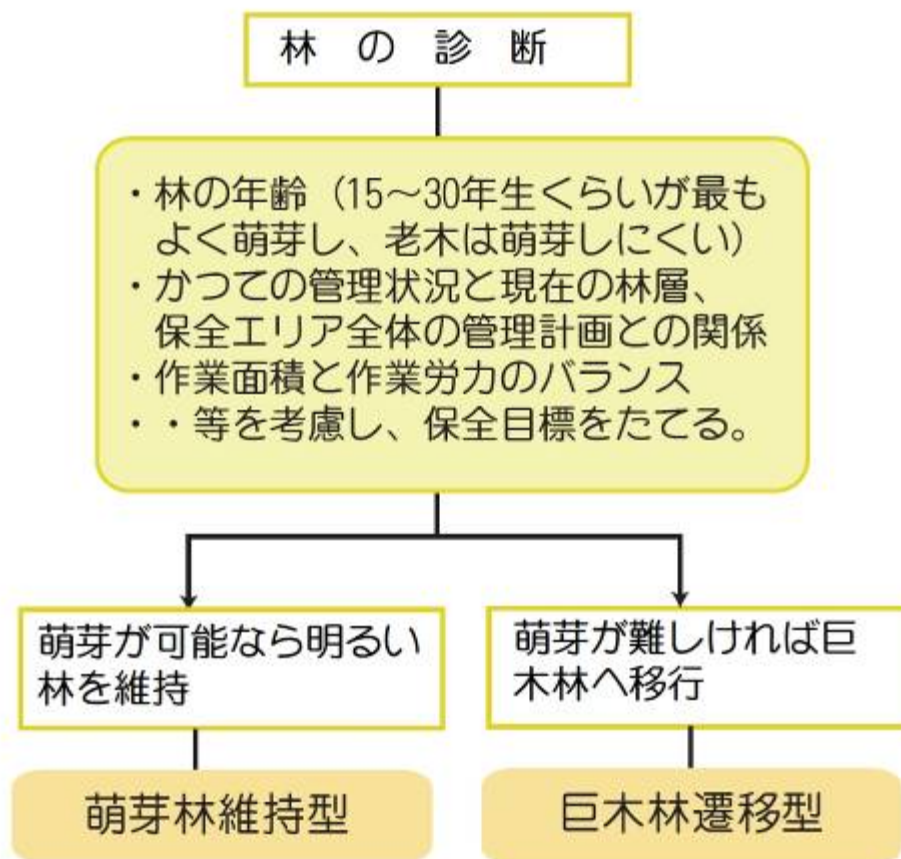


伐採木は、乾燥させて炭や薪として活用



手入れされている明るい竹林

雑木林の管理イメージ どのような雑木林をつくるか



【萌芽林維持型】萌芽林にもどす

若い樹ほど再生力がありますので、秋から冬にかけて、部分的に皆伐するか、大径木を間伐して若い樹を残します。伐採した枝葉は林内に置かず、たい肥場、椎茸のほだ木場、薪置き場に片づけましょう。皆伐から3年ほどすると、萌芽枝が2メートルほどに成長します。萌芽枝の根が原木の皮を伝わって地面に根を下ろしたことを確認して、四方に3～4本残し不要な萌芽枝を整理します。また、萌芽林の代表的な樹種はコナラやクヌギの林ですが、伐採して光が入ると、アカメガシワ、ヌルデ、ミズキ等の早生樹がいち早く伸びてきます。早生樹ばかりだとすぐに林冠が覆われてしまい、林内に届く光がまた減ってしまいますので、これらの早生樹はある程度整理します。

【巨木林遷移型】環境高林にする

大木の伐採には熟練した経験が必要なこと、大木は景観的に優れていることから、大きな木を残し小さな木を間伐します。林内の落ち葉を掻いて地表面を出し、林床植物の多様性を大きくしましょう。

自然林への移行

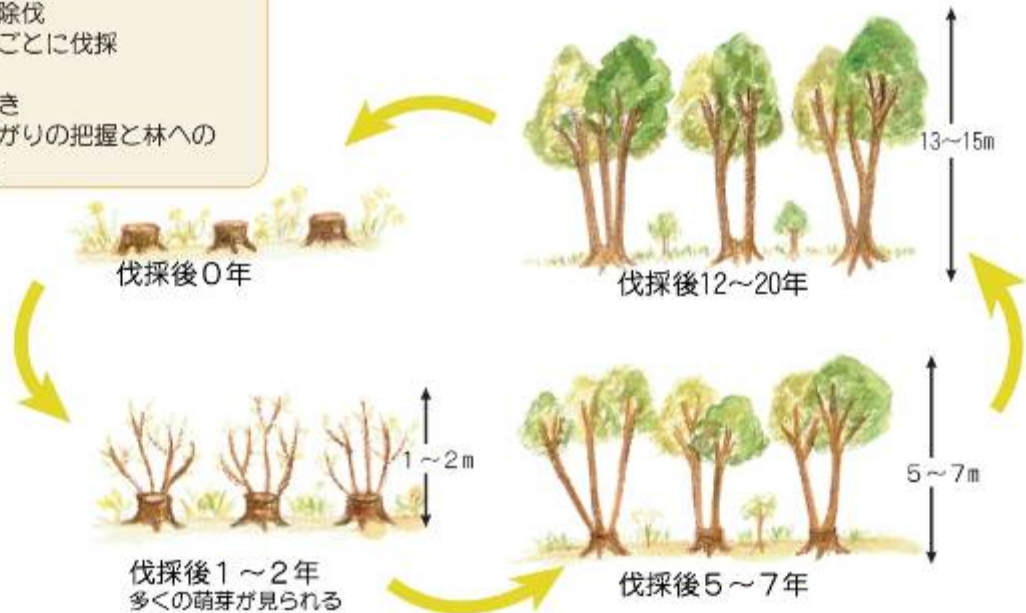
シイ、タブ、カシなどの常緑樹等を増やし自然林へ移行させます。整理するのは、早生樹から行き、常緑樹の成長を促進するように整理を行います。常緑樹が多くなると、通年日陰になります。日陰に強いヤブラン、ジャノヒゲ、ヤブコウジなどを保存します。

萌芽林維持型

暗くなった林を明るくするため、適度に除伐したり、ササや低木などの下草を借ります。

主な作業内容

- 混み合った林では若い木を残して適度に除伐
- 早生樹の除伐
- 20～30年ごとに伐採
- 下草刈り
- 落ち葉かき
- 竹林の広がりの把握と林への侵入防止



巨木林遷移型

雑木林を、あまり手をかけない方法で、木々の世代交代が自然に起こる巨木の森にしていきます。

主な作業内容

- 混み合った林では大木になる樹種を残して適度に除伐
- その後は落ち葉かき程度で原則として放置

